

法人名	堺泉北埠頭株式会社
作成(所管課)	大阪港湾局

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○港湾運営会社として主要埠頭（コンテナ・フェリー・RORO）の利用促進・活性化を図るため、営業収益の確保にも留意しながら、民の視点を活かした積極的な営業活動や利用者ニーズを踏まえた取組みに努める。

○既存事業については、大阪府から事業移管された上屋を含め、効率的な管理運営を行うことにより、収益性の向上、安定的な経営の維持や事業展開を引き続き行い、将来的に阪神国際港湾㈱との統合を目指す。

- 大阪府の施策
- ・ 港湾の整備と活用

基本方針

- 1 埠頭事業部門における公的役割の拡大
- ・ 主要埠頭（コンテナ・フェリー・RORO）の運営について、平成27年12月に港湾運営会社の指定を受け、平成28年4月から業務を開始。
 - ・ 中古車輸出拠点の機能強化に向け、ストックヤードの拡張整備や集貨促進に取り組む。
 - ・ 内貿機能の強化に向けて、助松埠頭の再編を進め、併せて外貿とのネットワークの利便性を高める。
 - ・ 老朽化に伴い維持補修等の対応が必要となっている府営上屋の事業移管を受け、補修や改修等の工事を計画的に実施し、既存上屋と併せて公的上屋の管理運営を一元的に行う。
 - ・ 民の視点及びスケールメリットを活かした効率的な運営を行うことで、利用者サービスの向上に取り組む。

- 2 収益の確保、効率的な経営
- ・ 堺泉北港における未利用施設の発生を極力回避するとともに、物流機能の充実・拡大を図るため、余剰金を有効に活用した効率的かつ積極的な投資を行い、売上拡大を図る。
 - ・ 事業コストの抑制に係る取組みを継続して収益性を高め、事業採算性に配慮した効率的な経営を進める。
 - ・ 業績の維持、向上による健全な経営を継続するとともに将来の万一のリスク（経済危機や大規模災害等）に備え、純資産を拡大し、財務の健全性を強化する。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

- ① 埠頭エリアにおける施設の利用率の向上
- ・ 埠頭上屋・荷捌地の利用率
【96.6%(R5実績)→96.6%(R8)】
- ② 中古自動車輸出拠点としての機能強化
- ・ 中古車ストックヤード整備面積
【55.4ha(R5実績)→58.9ha(R8)】
- ③ 売上高の拡大
- ・ 売上高
【2,741百万円(R5実績)→2,897百万円(R8)】
- ④ 効率的な経営
- ・ 売上高営業利益率
【20.0%(R5実績)→12.0%(R8)】
- ⑤ 純資産の拡大
- ・ 純資産額
【4,817百万円(R5実績)→5,402百万円(R8)】

○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R8実績値	R7目標値	R7実績値【見込値】	R7ウエイト	R7得点	R8目標値	R8ウエイト	中期経営計画 (R6~R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
											R8目標値	最終年度目標値	
① 埠頭エリアにおける施設の利用率の向上	埠頭上屋・荷捌地の利用率 (埠頭上屋・荷捌地の貸付面積×年間契約月数)÷(埠頭上屋・荷捌地の全面積×12か月)×100		%	96.8	96.6	[96.8]	40	40	↓96.6	40	96.6	96.6	・埠頭上屋・荷捌地の利用率実績は、近年高水準で推移している。 ・令和7年度の内貿RORO航路における荷捌地利用については、昨秋に千葉航路の増便船を誘致できたこと、外航コンテナ航路にて、日用品商社や令和5年に獲得した住宅建材メーカーの輸入荷主の貨物量が増加したことから、堅調に推移している。 ・また、外貿RORO(中古車)の荷捌地利用についても、長年当港輸出相手先首位のニュージーランドの景気の回復が遅れているものの、仕向け地が好調なスリランカ、ケニア、タンザニア等のアフリカ諸国をはじめ、マレーシア向け等荷捌地需要も高位推移している。 ・一方、近年の急激な為替変動をはじめとする世界経済、中東情勢の緊迫化に伴うホルムズ海峡等物流チャックポイントの通航リスク(封鎖)やエネルギー価格の不安定化等の世界情勢による物流への影響が懸念される。 ・上記内容を考慮し稼働率目標値を設定した。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)												戦略目標達成のための活動事項	
最重要とする理由、経営上の位置付け	○当社は、収益性の向上、安定的な経営の維持を図り、大阪府の港湾施策に最大限貢献していくことを目指している。艮の視点で利用者ニーズをより的確に把握してサービスの向上を図ることにより、埠頭の更なる利用促進・活性化を図ることが、当社の最大のミッションであり、その成果は施設の稼働率に反映されることから「埠頭エリアにおける施設の利用率の向上」を最重要戦略目標に設定した。 なお、「埠頭エリアにおける施設」とは、助松埠頭や汐見埠頭などの埠頭において当社が所有する「埠頭上屋」及び港湾運営会社の主要経営資源である「荷捌地」を対象とする。												
最重要目標達成のための組織の課題、改善点	【課題】 ・埠頭上屋・荷捌地の利用率は国内外の様々な外的要因により減少が危惧される。 ⇒外的要因の具体例としては、近年の急激な為替変動をはじめとする世界経済、ロシアのウクライナ侵襲、中東情勢の緊迫化に伴うホルムズ海峡の通航リスク(封鎖)や原油価格の不安定化、情勢不安に伴う航路変更・輸送遅延などの世界情勢、国外における港湾作業に係るコスト増、物流2024年問題の影響などが挙げられる。 ・働き方改革の進展に伴う利用各社の労働力不足による施設返却。 ・業務量増加に伴う社員数の増加に対応した組織体制の強化。 【改善点】 ・船社や荷主、港運事業者など多方面な業種との情報共有と各社のニーズに即した柔軟な対応による現利用者の支援強化と新たな利用者の獲得に向けた営業活動。 ・老朽化が進む埠頭上屋の計画的な補修、改修の継続実施。 ・社員一人ひとりの意識改革を図り、港の管理運営を担う、人材育成に取り組む。												
活動方針	【埠頭上屋・荷捌地の利用率向上の方針】 上屋や荷捌地の利用率は国内外の経済状況(為替、金利、景気等)や世界情勢、また会社方針など様々な要因により変動するものであるが、下記取組みを行うとともに積極的な営業活動を行うことにより利用率の維持・拡大に努める。 ①埠頭上屋賃貸 ・景気や世界情勢等の影響を受けやすい貨物を扱う上屋については、顧客ニーズに対して的確な対応を行い利用率の維持に努めるとともに、万が一施設の返却があった際に迅速に対応できるように新規顧客の獲得に向けて上屋需要などの情報収集や営業活動を行う。併せて既存上屋内の貨物保管状況も逐次把握しておく。 ・上屋の老朽化対策について、急激な費用増に配慮しつつ、計画的な補修改修を継続的に実施する。 ・上屋本体における利用者ニーズに応じた改良や機能高度化といったサービスの改善に取り組む。 ・既存上屋と併せ、公の上屋の一元的管理により、効率的運営とサービスの向上に取り組む。 ②荷捌地運営 ・コンテナ貨物については、外内貿易物の維持・拡大(新規貨物獲得)、ポートセールスの強化などにより、コンテナヤードの利用率の維持・向上に取り組む。また、コンテナヤードと中古車ヤードの利用者要望に応じて柔軟な貸付を行う。 ・中古車輸出拠点の機能強化に向け、中古車関連サービスの誘致・建設支援により、特に検査制度をはじめとする輸出環境の変化に迅速・柔軟に対応するとともに、貨物の多様化を図るため、新たな中古車等重機取扱い増に向け、新たな荷役機器の導入(タグマスター)を進める。 ・船舶の大型化への対応、維持補修での迅速な対応、及び施設の改良工事等の利用者ニーズへの的確な対応により、効率的で使いやすい港湾運営に努める。 ・外航船舶(自動車専用船)と内航船舶(ばら積貨物船)が混在する汐見5号岸壁においても、他の岸壁と一体的で効率的な岸壁運営に取り組む。												
	○埠頭上屋(上屋賃貸事業) 1. 利用者ニーズを的確に把握し施設の機能更新、高度化の実施 2. 工事の一括発注によるコストの低減及び効率的な管理運営の実施 ○荷捌地(埠頭運営事業) 1. 中古車輸出機能の強化 ①関連施設用地の使用料減免などにより、中古車輸出関連サービス施設の整備・誘致を支援 ②輸入国の検査厳格化に対応し中古車の熱燻蒸気施設等の整備・誘致を支援にも対応 ③新たな利用者へのきめ細やかなサービス提供 ④タム保管ヤードの拡張整備 ⑤タグマスター導入に向けた関係者等との調整 2. ポートセールスなどの積極的な営業活動 ①自治体、関係団体等と連携したセールス活動(セミナーの開催等) ②海外プロモーションの実施等 ③独自の優遇制度を活用したポートセールスの実施 ・船舶大型化・増便や新規航路開設による拡充分に、岸壁使用料等を最大75%減額 ・荷捌地を効率的に運営した利用者への利用料減免 ④物流2024年問題を踏まえ、内航RORO・フェリー活性化のためのプロモーション活動 ○質の高い利用者サービスの提供 1. 新規の優遇措置制度の検討・立案 利用者ヒアリングや営業活動によって新たなニーズの掘り起こし 2. 良好な施設の維持管理 ①日々の点検・巡視業務により、予防保全が効果的な箇所を早期補修し、施設を良好な状態に保つ ②利用者との対話から施設不具合発生時は即日対応(ワンデーレスポンス)を基本に迅速な対応に努める 【埠頭上屋】・外壁等の防錆塗装、庇等上屋老朽化施設の修繕 ・老朽化したシャッターの取替、荷物用エレベーター等の改修 ・電気、消防施設等の点検整備等 【荷捌地】・舗装補修・荷役機械等の点検・補修等 3. 施設の改良・機能高度化 利用者要望、新たなニーズ、業界の動き等の情報を正確に把握し、将来にわたる顧客確保に努める 【埠頭上屋】・上屋周辺芝生樹木伐採等 【荷捌地】・既存の荷役機械の適正管理 ・利用者要望に応じ、検査施設等の設置 ・港湾施設遠隔監視システムの増設(カメラ設置) ・コンテナ搬入時のゲート利用改善に資する施設改良 ・大型建設機械に対応した施設改良等												

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6実績値	R7目標値	R7実績値 〔見込値〕	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R6~R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
② 中古自動車輸出拠点としての機能強化	中古車ストックヤード整備面積		ha	58.6	58.7	[61.5]	25	25	62.2	25	58.9	58.9	<p>・中古自動車輸出拠点として機能強化を図るため、中古車輸出機能の夕風地区への集約に必要なヤード整備を計画的に進める。</p> <p>・埠頭再編に伴う移転地における約9haのヤード整備工事(既設ヤードの再整備を含む)については、令和8年度から令和9年度までの2か年で実施を予定している。令和8年度の目標値は、利用者との調整状況を踏まえ、当該年度における整備面積として設定した。</p>	<p>・港湾計画に基づく埠頭再編を推進するため、大阪港湾局と情報交換や協議を行った上で、港湾事業者等の関係者と具体的な移転時期や移転内容等について、引き続き、協議・調整を図りつつ必要なヤード整備を行う。</p>

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

③ 売上高の拡大	売上高		百万円	2,831	2,782	[2,836]	10	10	↓ 2,779	10	2,897	2,897	<p>・埠頭運営事業は、R7に引き続き、中古車輸出の好調が見込まれるものの、中東情勢の不透明感を踏まえ、R6実績値と同程度の売上高を設定した。</p> <p>・青果事業においても、R7に引き続き、円安や物価高の影響により輸入青果物および罐詰貨物の取扱の好転が見込めないため、R7を下回る売上高を設定した。</p> <p>・上屋賃貸事業、中古車保管ヤード事業は、R7と同程度の稼働率を見込んだことから、R7と同程度の売上高を設定した。</p> <p>・緑地運営事業は、R7は万博開催の影響により、音楽フェスの開催が減少したが、R8は通常に戻ることや、営業活動による新規イベント誘致を見込んだ売上高を設定した。</p>	<p>・埠頭運営事業(港湾運営会社)は、稼働率の維持・向上に向け、新規航路開拓や大阪港と連携したポートセールスの実施、物流2024年問題を踏まえ、内航RORO・フェリー活性化のためのプロモーション活動を行っていく。</p> <p>・中古車保管ヤード事業は、埠頭再編に向けた保管ヤードを移転利用者と調整し拡張・整備するとともに、中古車輸出事業者の利便施設等の整備・誘致に向けた取組みを進める。</p> <p>・青果事業における荷受業者などと連携した、輸入青果物の集荷活動の継続。また、時節に合わせた輸入商材(野菜等)の確保も積極的に行う。コールドチェーン確保を図るため、R5より供用開始をした塚青果センター第2定温上屋エアージェルター2基を、貨物誘致材料の基軸として、引き続き、輸出貨物を含めた新商材貨物の更なる集荷に向けた取組みを積極的に行う。また、「産直港湾」協議会はじめ、セミナーや商談の場を通じて、農産物の更なる輸出拡大を図る取組みを推進する。</p> <p>・上屋賃貸事業は、計画的な修繕・改善及びサービスの向上により、稼働率の維持に努める。売電事業は、太陽光発電を安定的に稼働し、環境負荷の低減に努める。</p> <p>・緑地運営事業は、地元市との連携による泉大津フェニックスの活用向上を図っていくとともに、既存に加え、新たなイベントへの参画や閑散期におけるイベントの誘致を図るなど、年間を通じた活用となるよう進めていく。</p>
④ 効率的な経営	売上高営業利益率 (営業利益/売上高)		%	19.0	14.1	[20.6]	15	15	↓ 14.9	15	12.0	12.0	<p>・災害対策の一環として、上屋における防錆鉄扉の更新や、塚青果センターの冷凍機更新、中古車ストックヤードの拡張整備などの投資や新たな緑地運営事業にも設備投資が見込まれるほか、組織体制の強化に伴う人的資本投資などを考慮し、目標値を設定する。</p>	<p>・行政や大阪港と連携したポートセールスを実施することにより営業活動の強化を図る。また、利用者ニーズに応える施設の整備や新たな機械の導入により、新規航路、新規企業の拡大を図る。</p> <p>・老朽化した施設の計画的な改修や修繕を行うことで顧客満足度の向上を図るほか、上屋の再編整備にも積極的に推進を図る。</p> <p>・埠頭再編を推進するため、ヤードの拡張整備への投資を行う。</p> <p>・緑地運営事業には設備投資も見込まれるが、地元市と連携した港湾地域の賑わい空間を形成し、年間を通じたイベントの誘致を図り、収益の向上を図る。</p> <p>・また、経費についてはコスト縮減に努め、10%以上の利益率を確保する。</p>
⑤ 純資産の拡大	純資産額		百万円	5,147	5,327	[5,503]	10	10	5,729	10	5,402	5,402	<p>・算出した経常利益を基に法人税等を控除した純利益に、株主配当を考慮した額を計上した。</p>	<p>・府営港湾の運営という公的役割を認識しつつ、埠頭運営事業(港湾運営会社)の円滑な事業推進や発展を目指すほか、新たな事業の収益の増加と費用を抑制し、財務の安定を図り、経済危機や大規模災害等のリスクへの備えや株主への安定的・継続的な配当につなげるため、純資産を拡大する。</p>

R7得点合計 〔見込得点合計〕	[100]
--------------------	-------

【凡例】

- ・☆はR8年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	堺泉北埠頭株式会社
-----	-----------

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
多目的広場および多目的緑地の利用に関する満足度調査	施設に設けたQRコード記載看板、イベント申込メールでのアンケート案内	利用申込者(イベント企画者) 施設利用者(イベント参加者)	122件 (実績見込)	令和7年8月30日より

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>CS調査は、海辺にあるアスファルト舗装の屋外広場(多目的広場)と芝生の屋外緑地(多目的緑地)を対象に実施した。アンケートは、イベントの企画者と参加者の双方から意見を収集し、施設の利便性向上に向けた検討に活用している。</p> <p>イベント企画者の結果では、自動車競技などで施設を利用した団体の約86%が「満足・やや満足」と回答しており、特に広大なアスファルト敷地であることが評価されている。またイベント参加者の結果では、音楽フェスの利用者の約89%が「満足・やや満足」と回答した。</p> <p>一方で、施設利用に関する意見として、屋根のある休憩場所や、座学を伴うイベントに対応できる会議室の整備を求める意見があった。</p>	<p>(結果を踏まえ実施した取組)</p> <p>—</p> <p>(今後実施予定の取組)</p> <p>令和8年に冷暖房を備えた全天候型小屋2つを設置する予定である。</p>

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
多目的広場および多目的緑地の利用に関する満足度調査	施設に設けたQRコード記載看板、イベント申込メールでのアンケート案内	利用申込者(イベント企画者) 施設利用者(イベント参加者)	100名~150名	通年

■ 令和8年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
埠頭上屋・荷捌地の利用稼働率	%	〔96.8〕	96.6

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
売上高	百万円	〔2,836〕	2,779

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>○埠頭上屋・荷捌地の利用稼働率の目標設定の考え方は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埠頭上屋・荷捌地の利用稼働率実績は、近年高水準で推移している。(R4:96.6%、R5:96.6%、R6:96.8%、R7見込み:96.8%) ・令和7年度の内貿RORO航路における荷捌地利用については、昨年秋に千葉航路の増便船を誘致できたこと、外航コンテナ航路にて、日用品商社や令和5年に獲得した住宅建材メーカーの輸入荷主の貨物量が増加したことから、堅調に推移している。 また、外貿RORO(中古車)の荷捌地利用についても、長年当港輸出相手先首位のニュージーランドの景気の回復が遅れているものの、仕向け地が好調なスリランカ、ケニア、タンザニア等のアフリカ諸国をはじめ、マレーシア向け等荷捌地需要も高位推移している。 ・一方、近年の急激な為替変動をはじめとする世界経済、中東情勢の緊迫化に伴うホルムズ海峡等物流 chokeポイントの通航リスク(封鎖)やエネルギー価格の不安定化等の世界情勢による物流への影響が懸念される。 <p>上記の理由から、近年の実績を考慮しつつ、中期経営計画の最終年度目標値を以って稼働率目標値を設定した。</p>
-----------------------------------	--

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>○売上高の目標設定の考え方は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埠頭運営事業において、R7年度実績見込値は中古車輸出の好調により、R6年度実績比6%増が見込まれるものの、R8年度は中東情勢の不透明感を踏まえ、R6年度実績値と同等程度を見込んだ。 ・その他、大阪府からR7年度に委託を受けた、燻蒸上屋設備撤去等の売上をR8年度は見込まないため、売上高をR7年度比マイナスの目標値とした。
-----------------------------------	---

■ 令和8年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[3]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
売上高営業利益率	%	〔20.6〕	14.9

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>○売上高営業利益率の目標設定の考え方は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埠頭運営事業の売上高をR7年度実績見込に対し、中東情勢の緊迫化に伴う不透明感を踏まえ、約6%減の売上高を見込んだ。 ・現在、計画的に実施している老朽化した上屋の防潮鉄扉や外壁塗装補修等の修繕費の増加や、泉大津フェニックス多目的緑地におけるサービス向上のための維持管理費の増加を見込み、営業利益率をR7年度比でマイナスの目標値とした。
-----------------------------------	--

[4]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	
-----------------------------------	--